

$2n=26$ の染色体数をもっており、それらの染色体はすべて同じ形態を示し、かつ大変小さかった。オーストラリア産のイシモチソウ (*Drosera peltata*) の染色体数は、 $2n=40$ をもつ日本産やインド産のものとは異なり、 $n=16$ であった。関西型コモウセンゴケ (*Drosera spathulata*) から $K(2n=60)=18L+42S$ がえられた。染色体数は愛知県産コモウセンゴケと同数である。日本で園芸栽培され始めたナガモトモウセンゴケ (*Drosera* × '*Nagamoto*') といわれる雑種はナガバノモウセンゴケ (*Drosera longifolia*) を母親に上記関西型コモウセンゴケを父親として、永本二郎氏により作出されたものである。この雑種の核型を調べたところ、 $K(2n=50)=30L+20S$ と、 $K(2n=43)=30L+13S$ という 2 つのものが得られた。

□ 中国科学院植物研究所主編：中国高等植物図鑑 *Iconographia Cormophytorum Sinicorum* 第 1 冊，第 2 冊。中国科学出版社，1972 年 2 月発行，第 1 冊 5.20 元，第 2 冊 5.60 元，A5 版。中国のコケ類以上の高等植物の図鑑である。解説によると、中国にはコケ類以上の高等植物は 3 万種知られているが、その内 7500 種を図説する計画で、第 1 冊，第 2 冊が出版された。第 1 冊はコケ類 212 図，シダ類 356 図，裸子植物 109 図，被子植物の離弁花類をエングラの旧版の順序でクスノキ科まで 1054 図。第 2 冊はケン科からミズキ科までの離弁花類の残りの全部 2224 図をのせ、用語の解説と科，属の検索がつけられている。印刷の体裁は牧野日本植物図鑑と似ていて、1 頁に 2 種類づつ図説されている。第 3 冊は合弁花類，第 4 冊は単子葉類が予定されている。

中国各地の植物系の研究所や大学が協力して編集したものである。今まで中国の図説類は、大型の詳細に画かれたすぐれたものがいくつかある。しかし大部すぎることで、地域的にすぎるため学術研究以外には使用しにくく、一般的なものは殆んどなかった。陳氏の中国樹木分類学も樹木だけの図鑑である。今回のものは草も含め、しかも中国植物のほぼ 4 分の一が納められているので貴重なものである。日頃名前だけはきいていても図を見る機会がなかった中国固有の属や種が多数のせられているので見てもらったのしい本である。

多量の図なのでかなり既存の本から引用された図がみうけられる。これらは出典まではあげなくとも、少くとも引用のもとになった原図の著者名位はあげておくべきものと思う。中には既存の原図をもとに書きかえたのでないかと思われるものもある。そのため記載文と図とは別の植物でないかと考えられるものがある (例 *Viola vaginata*)。牧野図鑑から引用したものは細部が省略されて粗な図になっているなど欠点もあるが、とにかく便利な価値の高い本が出版されたもので、早く完成されることが望まれる。日本では 2 冊 3,240 円で販売されている。北京で購入して、早速情報を伝えて下さった山田和子氏に感謝する。

(山崎 敬)